



higashiyamato no
ひがしやまとの



こくさい こうりゅう
kokusai koryu



「ニカラグア(中南米)・ウガンダ(アフリカ)通信」

～青年海外協力隊員からの活動報告 Vol.2～

2016年 8月発行

こんにちは！青年海外協力隊の島崎琴子（ニカラグア）と松田薫（ウガンダ）です。



ニカラグア NGO の建てた井戸へ水を汲みに行った家族の様子

コモ エスタ？

東大和市の皆さんこんにちは！

仲原出身の島崎琴子です。ニカラグアに来て早くも1年が経とうとしています。題名のコモ エスタ？(¿Cómo está?)は「お元気ですか」という意味でよく使用します。前回の第1号ではニカラグアの地理や人口、人柄を紹介しました。今回は私の活動の様子と共に村の人々の生活についてご紹介します！

■エル・ポルベニール (www.elporvenir.org)



私はエル・ポルベニールという NGO で教育担当者として働いています。エル・ポルベニールは「清潔な水と地域の健康」をスローガンにニカラグアの田舎にある村々で活動しています。主なプロジェクトは井戸(5、6 軒に1つ)・ポットン式トイレ・簡易かまどの建設です。20 年前からエル・サウセの街で活動しており、多くの人々の水へのアクセスを容易にし、公衆衛生の維持・向上を図っています。建設を終える時、村の人々は本当に喜んでくれます。なぜなら、今まで遠くの井戸や川へ往復3時間かけて水を汲みに行っていたのがほんの数分になります。また夏場は気温40度を超え、川の水はすぐに干からびてしまうので深く掘った井戸は重宝されます。

■私の活動

さて、井戸・ポットン式トイレ・簡易かまどが完成した！それでお終い？ではないのです。ここからがとても大切な点で、村の人々が大切に長く使い続けていけるように見守っていかねばなりません。上の写真の井戸も子供たちが立っている場所で洗濯やシャワーはしないように、機械を掃除するよう指導しています。それは後にひび割れた隙間や小さな穴から汚れた水が井戸の中に入ってせっかくの清潔な水が不潔にならないようにするためです。地域の人々はこの水をそのまま飲むので！

横の写真はポットン式トイレの写真です。トイレとは思えないでしょう？基本的にトイレは家の外にあるので、必要で家の大切な一部と思ってもらえるように「トイレ飾りつけ大会」を開催しています。その中でも素敵なトイレ空間を考えてくれたエレナさん。このトイレは排泄物のみだけい



れます。大地は偉大で自然に地球に帰っていきます。そうすると4人家族なら10年ほど使

い続けられるんです。そのため、ハエが寄ってこないように毎回蓋をしめることやトイレト
トペーパー用のゴミ箱を用意してもらうこと、手洗い場を設置してもらうことなどを願
いしています。また、同僚たちへ日本にいた時に看護師として勉強したことを伝えたり、新
しいアイデアを共有したりしています。

■村の生活の様子

私が活動している村の一般的な家庭の一日の様子を紹介します！女性と子供たち、男性
の仕事についてです。



トルティーヤを作って焼いています



牛も私たちと同じ道を歩いています



ごみについてのミニ講義中



荷物を運んだり、遠いところに行く時
は馬！皆の足として働いてくれます



トウモロコシはニカラグア人
の主食！トルティーヤもトウ
モロコシでできています

The pearl of Africa

◆ ウガンダでどのような活動をしているの? ◆

私の仕事は、米の普及や技術指導を通じた、農家さんの収入向上です。現在は、2つの村で、農家さんたちと一緒にお米の栽培を行っています。一緒に活動しているお米農家さんのほとんどは、栽培歴2年くらいです。長い農家さんだと、10年です。日本に比べると、ウガンダのお米栽培の歴史は短いですね。彼らは湿地帯（丘と丘の間の土地では水がたまりやすくなる）でお米を育てています。

ウガンダのお米事情

お米の値段は1kg 2500~3600sh=約100円前後（時期により変わる）です。お米は高級品なので、毎日の食事でお米を食べる農家さんはいません。給料をもらっているウガンダ人のNGO職員や県庁職員などは、毎食の内1回は食べていたりします。右写真はカムリタウン内のお店でお米が販売されている様子。お店の人が透明の袋に入れてくれます。



◆ ウガンダの村の様子 ◆

ウガンダ人の70%は農業をしており、特に村では自給自足に近い生活をしています。家の周りや畑では、主食として食べられているトウモロコシやマトケ（甘くないバナナ）、サツマイモ、主食と一緒に食べるスープの具として豆や落花生、トマトなどの野菜を育てています。また、マンゴーやジャックフルーツなどのフルーツ、コーヒーなどを自宅の周りに植えている家庭が多いです。



活動している村(カムリの中心地から20km)の村長さんの家の写真。

私の活動しているブルイヤという村では、村の中心地に小さな売店が1つあります。その売店ではビニール袋に入った油や冷えた水、お菓子、洗濯石鹼などが販売されています。村では、お金が入った時は、今まで買えていなかった生活用品を買ったり、その日のご飯がいつもより豪華になったりします。しかし、お金に余裕がないときは、その日に余ったお金を使って、その日に必要なものだけを買に行きます。村で冷蔵庫を持っている家庭はありません。その日に取った野菜を食事で使ったり、部屋の隅に収穫した食べ物を保管しています。

◆ お米農家さんの1日 ◆

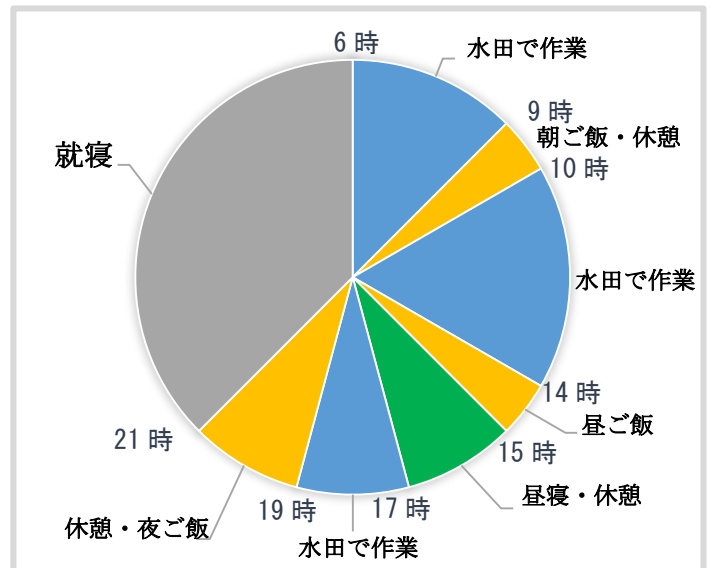


さて、ウガンダ人はどのような生活を送っているのでしょうか。一緒に活動している米農家ジャマーリくんのある1日をご紹介します。(時期: 田植え前の3月)

ジャマーリくんのプロフィール

29歳、奥さんとの間に6人の子どもがいる。米栽培歴は2年。とても明るく、まじめな人。米の他にトウモロコシ、サツマイモ、豆などを育てている。

田植え前の時期は、どの農家さんも田んぼの準備で大忙しです。空が明るくなる前の時間帯から田んぼに出ています。近所の人から借りた牛2頭と田おこし機械を使い、土をやわらかくするために田おこしをします。牛を先導する人と田おこしの機械を支える人の最低2人が必要になります。この日は、友人が手伝いに来てくれました。9時ごろになると、田んぼで働いているジャマーリくんのもとに、奥さんが砂糖がたっぷり入った紅茶とふかしたサツマイモを持ってきます。田んぼ付近の木陰でその朝食を食べた後は、また田んぼに戻り作業の続きをします。お昼ご飯の時間帯は日本に比べて少し遅いです。この日はポショ(トウモロコシ粉を蒸かしたもの)と豆スープです。家の外でジャマーリくんはイスに座り、奥さんと子どもたちは地面に座ってご飯を食べます。男性がイスに座り、女性と子どもは地面でご飯を食べるといのは、ソガ族(カムリに住んでいる民族)の習慣なのです。家で昼寝をした後、自宅から歩いて10分かけて田んぼに向かいます。日が落ちるまで田んぼ仕事をした後、牛と機械を返し、自宅へ帰ります。夜ご飯を食べ、お腹いっぱいになってから寝るといのが、ウガンダ人流の夜の過ごし方です。



ニカラグア探検！



訪問している村の貧困層では、ただの木の板やビニール袋のお家もあります



彼女と一緒に川を渡って、その先にある家族を訪問しに行くところ！



大好きなハイビスカス。ニカラグアのハイビスカスジュースは絶品！



伝統的なフォルクローレの音楽に合わせたダンスを練習中の子ども達



ホームステイ先の家族へ巻き寿司を作っている私…つまみ食い♡



エル・サウセの教会と夕日

〈 ウガンダ写真館 〉

ウガンダ探検！



レイクムブロ国立公園ではたくさんの草食動物と出会えます。



ケニアとの国境沿いにあるエルゴン山山頂付近からの景色。



村でよく取れるサツマイモを使って、サツマイモチップスを作っている女性。



雨季になると川の水が道路にあふれ、通行することが難しくなることもあります。

〈 ミニコーナー 〉



5月ごろの田んぼの様子。お米が穂をつけ始めてきました。



ウガンダは赤道が通っています！モニュメントの前で写真を撮ることができます。

KAIGAIごはん

このコーナーでは、私たちの任地で食べられている現地食を紹介します。今回はニカラグアの現地食“ニカ朝食”についてです。



朝食といえば絶対コレ。白米にフリホーレスという豆を混ぜたご飯“ガジョピント”と写真の右端にあるクアハーダというチーズ、そして炒り卵。飲み物は砂糖がたっぷりのコーヒーです。毎朝、皆食べています。ガジョピントが美味しいんです！作る人によって少し味も違うのですが、私はホームステイのママのガジョピントが一番好きです。

連絡先

島崎 琴子 (しまざき ことこ)



ニカラグア



第6小学校出身

shimazakikk@yahoo.co.jp

松田 薫 (まつだ かおる)



ウガンダ



第2小学校出身

第4中学校出身

matsudakaoooru@gmail.com

ご感想、ご意見、ご質問等ございましたら、ご連絡ください。

第3号は2016年12月発行予定です。お楽しみに！

編集・発行 東大和市 子ども生活部 市民生活課 市民協働係
東大和市中央3丁目930番地
電話 042-563-2111 (内線1711・1716)
印刷 東大和市 総務部 文書課 印刷室



